

## 令和3年度のワーキングの開催及び取組状況

---

# ワーキングでの検討

今年度は、有識者との意見交換を通して、短期目標の達成に向けた取組内容を検討し、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）案」を作成しました。また、四万十市に飛来するツル類が安心して過ごせるように「四万十ツルの観察マナー」を作成・公表し、啓発活動を行いました。

## ○今年度の取組内容

### ①短期目標の達成に向けた取組内容の検討

- ・令和2年度に作成した「四万十川流域生態系ネットワーク全体構想」の短期目標の達成に向けて、具体的な取組内容を検討。
- ・ワーキングでの検討を踏まえて、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）案」を作成。

### ②「四万十ツルの観察マナー」の作成・公表

- ・四万十市に飛来するツル類が安心して過ごせるように、観察にあたってのマナーを検討。
- ・ワーキングでの検討及び四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会委員への照会を経て、「四万十ツルの観察マナー」を作成・公表。

### ③意見交換

- ・ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化の検討に資するため、四万十市が推進している「しまんと100年40010日プロジェクト」の担当である宮脇さなえ氏（四万十市農林水産課）を招いて、意見交換を実施。
- ・耕作放棄地を活用したビオトープ整備やツル類を活かした地域づくりの検討に資するため、吉野川流域における生態系ネットワーク形成に取り組まれている柴折史昭氏（NPO 法人とくしまコウナトリ基金）を招いて、意見交換を実施。
- ・地域住民や農業者等との連携・協働の検討に資するため、新潟県佐渡市での人とトキが共に生きる島づくりに当初から関わってこられた渡辺竜五氏（新潟県佐渡市長）を招いて、意見交換を実施。



ワーキングの開催状況



オンラインによる講演の様子

# 堤内地での代替ねぐらの創出

四万十川流域において、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加したものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状態です。そのため、四万十川の砂州を利用できなくなった場合の代替ねぐらを確保することが重要です。

## ツル類のねぐら環境の条件

- ・湛水深:5~10cm
- ・人工光が入らないこと
- ・日の入り1時間前~日の出1時間後に人や犬が近づかないこと



## 江ノ村地区でのねぐら環境の創出

江ノ村地区の田んぼの一部に、冬期に水を張り、デコイを設置しました。水を張った田んぼの状態を確認するために、自動撮影カメラによるモニタリングを行いました。今期は、ナベヅルのねぐら利用と周辺での採食利用の様子を確認することができました。また、ツル類以外にも、日中はサギ類、夜間はカモ類が利用していました。



11月13日17:00 ナベヅルが周辺の水田で採食  
(手前の5体はデコイ)



ねぐらをとったナベヅル24羽  
(手前の5体はデコイ)



デコイの真ん中でねぐらをとったナベヅル1羽

# 森沢・楠島・間の各地区での意見交換会

近年、ツル類の飛来頻度が高くなっている森沢・楠島・間の各地区で、「ツルの里づくり」の取組を紹介する場を設けました。当日は、これまで実施してきた取組内容を住民の皆様に説明した後、意見交換を行いました。

	森沢地区	楠島地区	間地区
実施日	10月24日(日)13:00～14:00	10月9日(土)17:30～18:00	10月28日(木)10:00～11:00
場 所	森沢集会所	楠島集会所	間集会所
対象	森沢地区住民18名	楠島地区住民6名	間地区住民5名
実施状況			
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇稲刈り後は必ず耕耘するため、二番穂は期待できない。</li> <li>◇ツルの鳴き声が聞こえると、どこにいたのだろうかと探してしまう。飛来してくるのが楽しみである。</li> <li>◇銃猟の発砲音がいけないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ツルの餌を確保するために二番穂を残すことは、田の管理上、色々と問題がある。そのため、二番穂を残すことに対する補償金はあるか。補償がないのならば、「残しましょう」という農業者はゼロだと思う。</li> <li>◇八束の大文字山の前には休耕田が沢山あるので、借り切って湿地に戻してはどうか。</li> <li>◇ツルを驚かさないと協力できると思う。ただし、生産している農業者に稲刈り後に田を耕さないでくれということは無理である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇今くらいの飛来数では、複数箇所になぐらをつくる必要性はさほど高くないと思う。1カ所、確実にねぐらとして機能する広い場所をつくってはどうか。</li> <li>◇餌場づくりは国土交通省だけではできないと思うので、一体となってやらないといけないと思う。</li> <li>◇伝染病等による絶滅の回避、自然保護等、様々な意味合いで、「ツルの里づくり」に取り組んでいることがわかった。農家も協力できることは限られるが、今の状態を維持することはできる。</li> <li>◇地域の人たちはツルを大事にし、気に留めている。</li> </ul>

# 夏のツルの自然体験学習会

2021年7月6日（火）に東中筋小学校6年生11名、東中筋中学校2年生3名の計14名の児童生徒を対象として、夏のツルの自然体験学習会を実施しました。

当日は、四万十つるの里づくりの会から「四万十市にやってくるツル」や「四万十つるの里づくりの取組」の講話のほか、中村河川国道事務所より「国土交通省の取組」を説明しました。また、秋のツルの自然体験学習会での交流授業に向け、鹿児島県出水市のツルの現状やツルの越冬地の分散化計画、出水市立鶴荘学園の取組の紹介を行いました。



四万十つるの里づくりの取組を説明



国土交通省の取組を説明



鹿児島県出水市の現状や取組を紹介

# 秋のツルの自然体験学習会

2021年10月29日（金）に東中筋小学校6年生10名、東中筋中学校2年生5名の計15名の児童生徒を対象として、秋のツルの自然体験学習会を実施しました。

当日は、江ノ村地区でデコイ（ツルの模型）の設置を行った後、出水市立鶴荘学園（8年生10名）とオンラインで交流授業を行いました。それぞれの地域の紹介とツル類の保全の取組を発表し、質疑応答を行いました。



ツル類に関する説明



東中筋小学校・中学校の発表



5班に分かれ、ナベツルのデコイを設置



鶴荘学園からの発表

## 【質疑応答の内容】

### 東中筋小学校・中学校

- ◇地域の方と行うツルの行事などはあるか。  
→地域の方、ツル保護会の方と羽数調査をしたり、観光客に対してツルガイドを行ったりしている。
- ◇ツルについて調べて、一番びっくりしたことは何か。  
→ツルが意外と大きいことにびっくりした。
- ◇なぜツル科を作ろうと思ったか。  
→義務教育学校で、国語や算数以外の教科を1つ作れる。ツルの活動が一番盛んな学校なので、ツルに関する教科を作った。

### 鶴荘学園

- ◇東中筋小学校の公認キャラクターの「つるたん」は、いつ作ったのか。  
→今の高校1年生が小学校6年生のときに作った。
- ◇パンフレットで四万十つるの里祭りを見て、出水にはそういう祭りがないので、いいなと思った。1,000人くらい参加しているとのことだが、みんなにツルのことを理解してもらえているという実感はあるか。  
→（佐伯氏）お祭りをやって12年になるが、地域の方々もツルのことについて興味を持ってきている。来年、再来年と続けていきたいと思っている。

# 四万十ツルの観察マナー

四万十川や中筋川の周辺には、毎年10月下旬から3月上旬にツルが飛来します。ツルは警戒心が強く、人や犬などが近づいたりすると驚いて逃げますので、ツルが安心して過ごせるように、以下のマナーを守っていただくようお願いします。



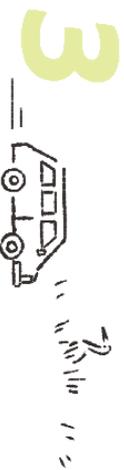
**1** 観察は200m以上離れて、双眼鏡等を使いましょう

飛来初期である10月下旬～11月中旬は特に警戒心が強いので、大人数での観察は300m以上離れてください



**2** ツルが苦手な大きな音や、人工の光を出さないようにしましょう

車で通行中のツルが近くを通過したら、止まらずにゆっくり通り過ぎましょう



**4** 犬の散歩はリードをつけて、ツルに近づかないようにしましょう

通行の妨げにならないようにしましょう



**5**

私有地や農地に無断で立ち入りたり、農作業を妨げないようにしましょう

**6**



【発行】四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会、四万十つるの里づくりの会、国土交通省中村河川国違事務所、四万十市  
【問い合わせ先】四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局 国土交通省中村河川国違事務所計画課

TEL: 0880-34-7306 FAX: 0880-34-1395 メール: skr-nakama45@milit.go.jp

# 第13回四万十つるの里祭り

2021年11月27日（土）に「第13回四万十つるの里祭り」（主催：四万十つるの里づくりの会）が開催されました。当日は、ツル観察バスツアーや取組を紹介するパネル展、四万十の野草がゆをふるまうツル食堂、太鼓の演奏などが行われ、約1,000人の来場者がありました。四万十川・中筋川流域がツル類の飛来する貴重な環境であることやツルの里づくりの取組について、多くの方に伝えることができました。



多数の来場者でにぎわう会場



東中筋小学校、東中筋中学校の児童・生徒による学習発表



ツル観察バスツアーの参加者に動画を  
使用して取組を説明



中筋川の堤防からフィールドスコープや  
双眼鏡を用いてナベツルを観察

## ツル観察バスツアー

バスで会場から中筋川右岸側の堤防まで移動し、江ノ村地区でナベツルの観察を行いました。14名の参加があり、実施後のアンケート(回答者13名)では、回答者全員が「満足」という回答をいただきました。

今回のバスツアーは何を通じて知りましたか？	
つるの里まつりチラシ	6
国土交通省のホームページ	0
SNS	0
その他	7
・イベントに来てから知った ・友人	

四万十市の環境を学習したり、体験したりできるイベントやツアーがあればどのようなものに参加してみたいですか？	
四万十市を代表する植物や生き物を専門家に説明してもらいながら見たり触れたりできる学習会	7
農業や漁業などの体験を通じて四万十市の環境を学習できるイベント	2
四万十市を代表する景観や環境を専門家に説明してもらいながら複数箇所巡るツアー	3
その他(①～③と組み合わせたら良いもの)	1
・四万十市にいる留鳥や他の渡り鳥の観察ツアーなども計画して下さい。	

(無回答1名)